

言語・コミュニケーション評価報告書

〇〇 〇〇 様

書類作成日：平成〇年〇月〇日

東京都〇〇市〇-〇-〇

TEL 〇〇〇〇

〇〇〇センター

リハビリテーション部 言語聴覚療法科

作成者氏名 〇〇 〇〇

〇〇 〇〇 様 性別：男 生年月日：平成〇年〇月〇日 年齢：9歳10ヶ月

◆実施検査

言語・コミュニケーション発達スケール（LCスケール）

◆評価場面の様子

入室・着席はスムーズであり、言語指示にも従えました。また、検査にも意欲的に取り組めていました。

◆検査結果

○実施時生活年齢 9歳10ヶ月 実施日 〇年〇月〇日

○領域別LC年齢およびLC指数

	言語表出	言語理解	コミュニケーション	総合
LC年齢	5-1	4-11	4-9	5-0
LC指数	52	50	48	51

生活年齢が6歳11ヶ月を超えていることから、上記の表に示したLC指数は換算表からの算出ではなく、LC年齢を生活年齢で割った値になります。このため、LC指数は参考値とお考えください。

以下、課題ごとの結果について記します。

<コミュニケーション>

基本的な感情の理解（【41 感情の理解】）や勝ち負けのルール of 理解（【42 勝敗の理解】）は正しく答えられました。4歳前半の【45 状況画の理解(1)】は状況画を示し説明を求める課題です。おもちゃを独り占めしている状況画を見て、『悲しい、おもちゃをひとりじめするから』と適切に説明ができていました。一方、4歳後半の【57 状況画の理解(2)】では、猫が植木鉢をこわしたと思われる状況で、男の子がこわしたと思いを違えて男性が怒る絵を見せて「どうして、おじさんは男の子のことを怒っているのですか？」という質問に『植木鉢をこわしたから』と答えられました。状況をおおむね理解し説明する力はあるものの、やや複雑な状況については一部分にのみ注目してしまい、登場人物の内面の理解には難しさがあるようです。

<語彙>

4歳前半の【37 量的概念の理解】や、挨拶語など対人場面で用いる語に関する【39 対人的言葉の使用】、描かれた動物の位置を答えてもらう【47 位置の表現】は全てが正答できました。【33 形容詞の理解(2)】において、「太い」は誤答されていましたが、「重い」、「速い」「高い」「明るい」、「熱い」は正しい絵を選択できていました。形容詞のレパトリーがさらに広がることが期待されます。

また、【48 疑問詞の理解】において、「何」、「どこ」、「だれ」に適切な応答ができ、【49 文脈に応じた動詞の使用】では「洋服は着る。スカートは？」に「はく」といった文脈に合った適切な応答ができており、5歳後半のレベルに達しているものと思われました。

<語連鎖・統語>

【44 助詞と語連鎖の理解】では、例えば「私がうさぎを指さしたら、あなたは犬を指さしてください」のようなやや複雑な指示を理解できていました。しかし、【51 位置を含む指示の理解】では「ねずみの隣のウサギ」や「いちばんはじめの魚」などは理解できていましたが、「真ん中の動物」は誤答となりました。4歳後半レベルの「～が～している」「～を～している」といった文の理解（【50 格助詞の理解】）は正確でしたが、「～が～に引っ張られる」といった文の理解にかかわる【55 受動態の理解】は全問不正解でした。このことから、文法的に複雑な文に関しては、聴覚的な理解に苦手さがあるものと思われました。

<語操作・談話>

【35 事物の定義】において物品の用途を適切に答えられていました。また、短いストーリーを聞いて出来事の順番を問う【52 文章の理解】でも5歳後半レベルの正答がみられました。一方、【46 推論】において、森の中で何も持たずに散歩してお腹を空かせた熊さんはどうしたらよいかを尋ねる問題で、『おにぎりを食べる』と回答され、空腹という状況には合っても絵で示された状況には合わない回答となりました。簡単なルールの説明（【54 じゃんけんのルールの説明】）もまだ難しいようでした。

<音韻意識>

「い」で始まることばなどを問う音韻意識に関する【53 音韻意識(1)】【56 音韻意識(2)】はともに正しく答えることができました。

◆総合所見

LCスケールから、総合LC指数、領域別LC指数共に、生活年齢と比して遅れが見られ、領域間の比較では、言語表出のLC年齢が言語理解、コミュニケーション領域に比べてやや高い結果となりました。なお、1年前の8歳10ヶ月で実施した際のLC年齢は3歳11ヶ月でしたので、順調に伸びていると思われます。

文脈において適切なことばを表出したり、やや複雑な聴覚的な指示を理解したりすることに苦手さがあるようでした。語彙は比較的良く習得しています。受動態文など、文法的にやや複雑な文の理解が伸びていくとよいでしょう。「～したときどうする」といった状況に合った対応の推理や、簡単なルールの説明も今後の課題です。状況を適切に理解し説明できるように、日常で経験する状況をことばで説明して聞かせてあげるとよいでしょう。

以上、簡単ではありますが、LCスケールの検査結果をご報告申し上げます。